

ここが南部藩 すべての道の起点

江戸・日本橋を起点とした奥州道中
その第139番目の一里塚が
この地にありました



鍛冶町は現在の紺屋町の一角。刀鍛冶や鉄砲鍛冶、農具を作る野鍛冶などの職人が住んでいたことからこの名がつけられました。ここには、奥州道中139番目の一里塚もあり交通の要所として、古くから豪商老舗が軒を連ねていました。この地にあった一里塚は、南部藩における街道の元標でもあり、ここを起点に脇街道にも一里塚が設置されました。まさに南部藩の交通網の中心であったこの地には、藩政時代の駅所もあり、公用の伝馬を使って情報などが受け渡されていたため、明治に入っても盛岡駅と呼ばれていました。人・もの・金・情報が集まった南部藩の流通拠点、鍛冶町。

現在その通り沿いでは、11月まで第3日曜日の8時から、『奥州街道紺屋町アンチック市』も開催しています。一度ゆっくりとこの通り沿いを歩いてみてはいかがでしょうか。

